

留学生のための入学前習得必修語彙リストの作成

List of Required Vocabulary before Entering University for International Students

愛甲 瑞枝[※]

Mizue Aiko[※]

要旨

留学生にとって語彙力は大学生活や学業の遂行に多大な影響をあたえる。通常大学入学には日本語能力試験（JLPT）レベル N2 が要求されるが、N2 レベル以上の語彙でも大学生活には必須の語彙があると想定される。履修登録を始め、大学生活を送るための様々な手続き、授業開始直後から必要になる語彙は、必ずしも JLPT N2 レベルと一致するとは言えず、さらに専攻によっても必要語彙は異なる。目的に沿った語彙習得が必要である。そこで、日本の私立大学で経済学を専攻する大学初年度の学生が入学後すぐ必要となる手続き書類やシラバスより語彙を抽出し、使用頻度の高い語彙を選出した。そのほか、先行研究の語彙データベースから学術関連用語を中心に大学生活に必要と思われる語彙を抽出し語彙リストを作成した。名詞についてはアカデミック語彙、キャンパス語彙、一般語彙に分類し、さらに小分類化した。入学前学習や入学後の語彙強化学習などに活用されることを期待する。

Keywords: 経済学、アカデミック語彙、キャンパス語彙、リスト、入学前習得必須語彙

1. はじめに

言語学習の4技能「読む」「聞く」「話す」「書く」のどの項目においても不可欠となるのが語彙力である。大学入学に際し日本語能力試験（JLPT）や日本留学試験の得点が一つの目安とされているが、必ずしも目安とされているレベルの語彙だけが大学生活で必要というわけではなく、また、留学生が JLPT N2 レベルの語彙すべてを習得しているとは限らない。入学前にどれだけの語彙を身につけているかは大学生の学業目標の達成に大きく影響する。留学生が大学生活を円滑に送れるよう、大学初年度、特に入学直後に必要とされる語彙を調査精選し、大学入学前に習得が必要な語彙をリスト化することを目的とした。

※日本経済大学経済学部商学科

2. 先行研究

2.1 必要語彙の種類

JLPTや日本留学試験の語彙は多数あるが、実際に大学生活に必要な語彙だけではなく、さまざまな分野の語彙が含まれている。留学生にとってそれらの語彙のほとんどを習得することはかなりの負担である。日本で生まれ育った人とは生活圏が違う留学生が、限られた時間で効率的に必要な語彙を習得していくためには、目的に合った語彙の選定が必要である。

大学で学習する留学生に要求される語彙知識の見解は様々である。山本（2003）が大学で留学生にどのような語彙知識が求められているかを調べるため教員に調査したところ、講義や配付資料、参考文献を理解できる力、インターンなどで外部の人とのコミュニケーションが取れる語彙力など、高度な語彙力が期待されていることがわかった。しかし、日本語母語話者と同レベルの語彙力を留学生が保持するのは難しい。山口（2014）は大学の講義は中学高校などの教科で学習したことや社会時事をベースとしていることも多いので、日本人には一般的な知識であっても生活圏が違う留学生に同じ知識を要求することは困難であると主張している。留学生自身も日本語知識の不足が学業に影響を与えていると感じていると思われる。実際梅村（2003）が留学生に困難と認識している項目を調査したところ、講義を聞いて理解できない、専門分野の文献が読みこなせない、などの意見があった。

2.1.1 専門分野の語彙の必要性

専門分野の文献には多種多様な専門用語が含まれている。しかし、それらすべてが入学前の習得必修語彙というわけではない。向井・串田・築地・菅野・吉井（2006）が工学部に所属するマレーシアの学生の語彙力を調査したところ、専門語彙より一般語彙の知識が低かったという結果が出ている。専門用語は通常の生活における使用頻度が低く、留学生にとってなじみのないものが多いと思われるが、入学前の語彙知識として特に必要とするわけでもないという意見もある。山本（2005）は専門用語はその授業において頻繁に繰り返されるため、自然に覚えてくるものであると主張している。また授業の際は板書などで視覚的に導入したり、ゆっくり言ったり、ポーズを取るなど工夫されるため（三國, 1998）、授業の中で正しく認識していくことが期待される。さらに、専門用語は必ずしも専門語彙だけで構成されているわけではなく、それを使用する際に同時に使われる一般用語の理解が必要であることも主張されている（渡辺, 2003）。それを考慮すると認知度の低い一般語彙を強化することが重要となる。

2.1.2 経済学分野で使われる上位語彙

経済学に関する専門用語も同様の見解でいいのか検証する必要がある。経済を扱う学問分野には商学、法学なども含まれ、それぞれに専門用語が存在する。今村（2009）が商学、経済学、社会学、国際政治学、法学の5分野の文献で使われる二字漢字語彙を調査したところ、集められた600語のうち40%以上は経済専門用語ではなく、どの教科でも使われる共通語であった。さらに各分野で使用頻度の上位50位までの語をリストし、その中でどの分野でもトップ50に入っている語は「場合」「問題」「関係」「必要」であることがわかった。これらの語彙も日常的に使われる共通語と言える。さらに今村

(2014) は社会科学系（商学、経済学、社会学、国際政治学、法学）の基礎文献28冊を分析した。分野ごとに高頻出語彙を抽出すると「生産」「経済」「消費」「需要」「労働」「投資」「所得」のような経済の専門用語も見られたが、「場合」「自由」「問題」「知識」「必要」「意味」など、専門用語以外の語も多出していることを確認し、それらを学術共通語として100語を選出している。つまり、経済学の分野においても専門的に使われる語はもちろん存在するが、教材を読むためにはそれ以外の学術共通語の知識が不可欠であることがわかる。大学で開講される講義は経済関係に留まらないことから共通語彙の充実が必要とされる。

2.2 一般的試験で要求される語彙カテゴリー

JLPTや日本留学試験で要求される語彙は専門用語や学術一般用語だけではない。それ以外の一般語彙の範囲は広い。その中でどのような語彙が留学生に求められているかを吟味する必要がある。JLPTでは課題を遂行するために文法語彙など個々の知識を使える力を求めているのに対し（曾・高橋、2003）、日本留学試験は学生の実生活で役立つ試験である（中居、2003）と指摘されている。JLPTは大学留学だけを目的として作成されているわけではないので、そこで必要とされる語彙すべてが大学生活に必要な語彙であるとは限らない。日本で生活する上で必要な語彙は膨大な量であると想定されるが、社会生活においては多言語のサポートや携帯電話等の翻訳機能などのアシストを利用する人も多いだろう。しかし、大学生活では一つ一つの語彙を翻訳せずに理解する能力が問われる。

大学生活で要求される数多くの語彙も多種多様である。そこで、大学で使用される語彙にはどのような分野があるのか吟味した。語彙の導入に当たっては分野に分けることで、習得率の向上が期待される。Paxton & Svetanant (2014) は意味ベースでのカテゴリーの導入が語彙の維持率を上げると述べている。Aiko (2018) は漢字語彙をカテゴリーで導入した漢字教材の有効性を実証した。そこで、作成する語彙リストは分野別に分類する。JLPT、日本留学試験に加え、主に企業などで使用される日本語を母語としない外国人の日本語能力を測定するJ.TESTなどではどのような語彙が含まれているのか、分野別に分類した検証結果がある。

曾・高橋 (2003) は新JLPT、旧JLPT、日本語実用検定J.TESTの出題傾向を調べ、すべてにおいて、スポーツ、旅行、家庭生活、問い合わせ、日常生活会話などの社会分野に関する出題が最も多いことを発見した。JLPTではレベルが高くなるにつれ、オフィス業務、社内行事、社内生活などのビジネス分野の出題が増えている。特にN3以上ではビジネス日常会話、商品の開発生産、宣伝などの経済用語、就職分野が多く、これらは経済学の分野では専門用語に相当する。さらにN3レベルでは論文・レポートなどに関する教育分野の出題も多い。教育分野のうち、授業に関するものはどのレベルでも見られる。日本留学試験を調査した堀井 (2003) は生活語彙が最も多く、次いで大学生活、授業に関する語が多いと指摘した。大学入学時で経済学の専門用語であるビジネス分野に特に焦点を当てない場合、JLPT N3レベルまでの社会分野、教育分野を中心に習得することが効果的であると思われる。

JLPTやJ.TESTは大学留学のみを目的としているわけではないため、含有語彙は多方面で多数ある。大学生活に必要な語彙抽出の精度を高めるため、さらに、日本語教育向けの語彙リストを参照した。松下 (2014) はコーパス分析に基づく語彙研究において日本語教育向けの語彙リストを作成し、その

中で留学生用のリストとして20,312語を選出した。このリストを参照することで、大学生活での必要語彙の範囲がさらに広がることとなる。

語彙レベル、出題レベル以外の分類として森（2005）は大学で必要な日本語能力を二つに分けている。日本留学試験が定義する留学生が卒業に至るために必要な日本語能力、アカデミック・ジャパニーズについて吟味し、授業、講義を聞き取ったり、ノートを取ったり、文献や資料を読んだりするのに必要な日本語能力をアカデミック・ジャパニーズ、事務手続き処理能力や教職員やクラスメートとコミュニケーションを取るのに必要な能力をキャンパス・ジャパニーズと表現している。それぞれの能力の分類は語彙レベルの分類にも応用できると考えられる。語彙に関する分類では平尾（1999）が専門領域で使用される「専門用語」、学術的な場で教育を受けるのに必要な語彙を「学問用語」、そして「一般用語」と分けている。大学においては専門用語も学問用語も学術に関する語、つまりアカデミックに関する語彙と言える。

関連文献を参照して語彙リストを作成する場合、留学生が最も苦手としている二字漢字語彙に絞っているケースが多い。しかし、動詞や形容詞を訓読みする場合でも学生の理解が不十分である場合はある。さらに、接頭語や接尾辞の認識が語彙学習に有効である（Toyoda, 2007）という検証結果もあることから、自立語だけではなく、派生語にも焦点を当てることで、より大学生のニーズに合うものが作成されると思われる。例えば「連絡先」という語彙ではその語彙自体を知らなくても「連絡」と言う名詞と「先」が意味することを理解できれば「連絡先」も認識できる。学生が自分の知識を活用してさらに語彙力を伸ばすためにも二字漢字語彙以外の語彙にも着目することが有効である。

3. 研究課題

本研究では経済学部に入学者向けの入学前必修学習語彙リストを作成し、学生の入学前学習資料作成や、入学後の語彙強化学習、入学試験問題作成の参考資料とすることを目的とする。そこで、先行研究で作成された語彙リスト、日本経済大学の公式文書（学生便覧、履修登録マニュアル、オリエンテーション資料、1年生に開講されたクラスのシラバスなど）から、入学前に習得すべき語彙は何かを検証することとした。

抽出した語彙は分野ごとに整理する。語彙の分類に当たっては先行研究を参照に、大学入学に必要な語彙を三分野に分けることにする。

1. アカデミック語彙：授業や、講義など大学の学業において必要とされる語彙
2. キャンパス語彙：学内事務処理に関する語彙（学生便覧や大学のホームページなどに使われている語彙を含む）
3. 一般語彙：大学の授業や手続き等特有の語彙ではなく、一般に使われる語彙

4. 研究方法

入学時、入学直後に必要とされる語彙を選出するため、大学の公式資料に記載されている語彙を抽出する。先行研究の語彙リストも参照しアカデミック語彙、キャンパス語彙、一般語彙の三分野に分け、さらに小分野に仕分けする。その中で、使用頻度が高い語彙を重要語彙として選出する。非漢字圏の

学習者が特に困難と認識している漢字を含む語を中心に抽出し、カタカナ語については今回除外した。具体的な手順は以下の通りである。

1. 入学当初に使用する大学の公式資料からカタカナ語を除く自立語を抽出する。
2. 学内の手続きに関する書類と授業に関する書類（シラバス）を別々に集計し、それぞれ10回以上使用された語彙をまとめる。
3. 全体数が多い名詞については20回以上、30回以上、40回以上、50回以上使用した語彙をそれぞれ抽出してまとめた。
4. 学内手続き書類、シラバスに共通して使用された語彙とそれぞれの書類にのみ使用された語彙をそれぞれまとめる。
5. 松下（2014）の語彙リストにある語彙の中から大学で使われると思われる語彙を抽出する。
6. 抽出した語彙をアカデミック語彙、キャンパス語彙、一般語彙に分類し、さらにそれぞれを小分野に仕分けする。
7. 仕分けした語彙の中で大学の書類で高い使用頻度の語彙を最重要語彙として識別する。
本調査で使用した大学の公式書類は以下の通りである。

1. 学生便覧
2. 履修登録マニュアル
3. オリエンテーション資料（資料の中で説明されているTeamsなどの画面に出てくる語彙も含む）
4. 外国人留学生のしおり
5. 年度初めの学生掲示板（オンライン）
6. 大学一年生を対象に開講される講義のシラバス（68講義分）

語彙の抽出に関し、下記の通り統一した。

1. 固有表現（大学名、地名、教科書等の名前、出版社）は除外
2. 名詞扱いされた語彙は動詞で統一（例：取り扱い→取り扱う）
3. 動詞は基本的に自動詞の辞書形で統一（例：持たせる→持つ、考えられる→考える）
4. 複合動詞は分解せずに辞書形で抽出（例：取り消す）
5. 複合語は自立語と派生語を別々に抽出（例：学生証→学生+証、運転免許→運転+免許）
6. 大学やその他の施設名はそのまま抽出（例：図書館、出入国在留管理局）
7. 一般形容詞の活用は辞書形に統一（高まる→高い）

また、本研究の年度の資料には新型コロナウイルス感染に関する語彙が多数上がっていたが、特殊性のあるものは特例の語彙として特にリストには挙げなかった。

5. 分析結果

5.1 大学の公式書類からの語彙抽出（学内手続きに関する書類とシラバスを別々に集計）

学内手続きに関する書類（学生便覧、履修登録マニュアル、オリエンテーション資料、外国人留学生のしおり）より抽出した語彙の総計は12,083語であった。調査したシラバスで抽出された語彙は12,830語である。それぞれの書類に高頻出する語彙の傾向を見るため、それらの語彙を品詞別に仕分けし、10回以上使用された語彙の種類の数をもとめた（表1）。

表1 10回以上使用された語彙数

	名詞	形容動詞	動詞	形容詞	副詞	派生語	計
シラバス	214	10	33	6	11	31	305
学内手続きに関する書類書類	193	2	16	3	6	35	255
合計	407	12	49	9	17	66	560

(調査データを元に作成)

抽出した名詞と形容動詞のほとんどが二字漢字語彙である。名詞と形容動詞の合計は、動詞（訓読みの語彙）、形容詞、副詞を合計した数の5倍以上である。留学生が二字熟語を最も苦手としていることから、名詞と形容動詞の習得の重要さがうかがわれる。

それぞれの書類で使用された語彙の総数はほぼ同じであったが、語彙の種類では派生語以外で全てシラバスの方が多い。学内手続き書類では難易度の高い語彙も多数出ているが、種類が限定されている。また、シラバスでは科目の種類によって使われる語彙が違うが、どの科目にも共通して使われる語彙が多く、科目特有の語彙は全体で見ると頻出度も少ないということがわかる。

さらにこれらの語彙の中で学内手続きに関する語彙とシラバス両方に使用されている語彙数を調べた。結果は表2の通りである。

表2 使用回数語との名詞の語彙数

使用回数	共通語彙	シラバスのみ	手続き書類のみ	全体語彙数
10回以上	64	150	129	343
20回以上	32	80	74	186
30回以上	21	49	43	113
40回以上	15	44	26	85
50回以上	12	39	21	72

(調査データを元に作成)

5.2 名詞

5.2.1 学内手続き書類・シラバスの共通語彙

抽出した名詞のリストは別紙1の通りである。学内手続き書類、シラバス両方に10回以上使用されている語彙は64個であるが、その中で20回以上の使用の中に入っていないものは32個である。20回以上両方で使用されている中で30回以上の使用に入っていないものは11個、同様に30回以上、40回以上について抽出した語彙は以下の通りである（表3）。

表3 共通使用語彙（使用回数別）

10回以上両方で使用されている中で20回以上の使用の中に入っていないもの（32）	評価 学習 方法 地域 基礎 計画 教育 企業 契約 利用 学校 能力 制度 学期 準備 設定 相談 調査 教職 指導 条件 簿記 状況 変更 教員 会社 購入 時間 取得 春 専門 注意
20回以上両方で使用されている中で30回以上の使用の中に入っていないもの（9）	内容 問題 生活 作成 担当 実施 使用 受講 以上 出席 操作
30回以上両方で使用されている中で40回以上の使用の中に入っていないもの（6）	対象 定期 選択 年次 提出 場合
40回以上両方で使用されている中で50回以上の使用の中に入っていないもの（3）	大学 学生 健康
50回以上で共通して使われている語（12）	授業 講義 日本 説明 情報 単位 科目 試験 参加 確認 活動 自分

（調査データを元に作成）

学内手続き書類、シラバス両方に出ている語彙で10回以上使用されているが20回以上使用されていない語彙の32個に着目すると、「評価」「学習」「方法」などの学術一般に関する語彙が12個、「企業」「契約」などの経済の専門用語が5個、「準備」「変更」「状況」など一般的な場面でも使われる語彙が15個である。両方の書類で20回以上使用されている語彙で30回以上の使用に入っていない語彙では9個と大幅な減少が見られ、その後30回以上使用されている語彙で40回以上の使用に入っていない語彙、40回以上使用されている語彙で50回以上の使用に入っていない語彙と3個ずつ少なくなっている。経済に関する専門用語は一目のグループにのみリストされており、そのグループとその他のグループとでは傾向が異なる。さらに頻出度が高くなればなるほど、学術に関する語彙の割合が増えていることがわかる。

5.2.2 学内手続き書類・シラバスのみで使用された語彙

次に、学内手続き書類、シラバスのどちらかにしか使用されていない語彙に注目する。まず、シラバスのみで使用されている語彙を使用回数別に分野ごとに集計した。「政治」「流通」「産業」などの経済に関する語彙、「哲学」「語彙」「発声」など教科名や経済以外の教科特有の語彙、「理解」「目標」「考察」などどの教科でも共通して使用される語彙、「将来」「影響」「紹介」など教科以外でも使用される一般語彙に分類した結果は以下の通りである（表4）。

表4 シラバスのみで使用された語彙数

使用回数	経済専門	%	教科特有語彙	%	学習一般語彙	%	一般語彙	%	計
10回以上	29	19.3	18	11.3	49	32.7	55	36.7	151
20回以上	17 (58.6)	21.3	7 (38.9)	8.8	29 (59.2)	36.3	27 (49.1)	33.8	80 (53.3)
30回以上	11 (64.7)	22.4	5 (71.4)	10.2	23 (79.3)	44.9	11 (40.7)	22.4	50 (61.3)
40回以上	7 (63.6)	15.9	3 (60.0)	6.8	25 (108.7)	56.8	9 (81.8)	20.5	44 (89.8)
50回以上	5 (71.4)	12.8	3 (100.0)	7.7	23 (92.0)	59.0	8 (88.9)	20.5	39 (88.6)

(調査データを元に作成)

使用回数が高くなるほどどの分野の語彙数も減少しているが、減少幅が大きいのは10回以上と20回以上の間である。()内の数字はそれぞれ一つ前のグループからの残存率を表す。数字が低いほど減少率が高いことを示している。例えば、20回以上シラバスのみで使用されている経済専門用語は10回以上の使用回数と比較すると58.6%になっているが、30回以上のグループについては減少率が低い。%の欄はそれぞれのグループでの分野ごとの割合である。10回以上のグループでは一般語彙が36.7%と一番高く、次に多いのが学習一般語彙の32.7%である。そのほかのグループでは学習一般語彙が一番多く占めている。経済用語は比較的多く占めているのは20回以上のグループと30回以上のグループで、40回以上では圧倒的に学習一般語彙の割合が多くなる。一般語彙は30回以上、40回以上、50回以上でほぼ同じ割合である。つまり、シラバスでは学習一般語彙が経済を含む教科特有の語彙より頻繁に使用されていることを示している。全体の傾向で見ると、語彙数は異なるが20回以上のグループと30回以上のグループ、40回以上のグループと50回以上のグループで似たような傾向が見える。

5.2.3 学内手続き書類のみに使用されている語彙

学内手続き書類のみで10回以上、20回以上、30回以上、40回以上、50回以上で使用されている語彙について分野ごとに集計した。「受験」「卒業」「在学」などの学籍に関する語彙、「履修」「時間割」「学生課」など履修や学内に関する語彙、「手続き」「変更」「資格」などどの手続き一般に関する語彙、「紛失」「掲示」「交通」などその他の一般語彙に分類した結果は以下の通りである(表5)。

表5 学内手続き書類のみで使用された語彙数

使用回数	学籍	%	履修・学内	%	一般手続き	%	一般語彙	%	計
10回以上	23	17.8	36	27.9	20	15.5	50	38.8	129
20回以上	12 (52.2)	16.2	24 (66.7)	32.4	10 (50.0)	13.5	28 (56.0)	37.8	74 (57.4)
30回以上	10 (83.3)	23.3	12 (50.0)	27.9	6 (60.0)	14.0	15 (53.6)	34.9	43 (58.1)
40回以上	7 (70.0)	26.9	7 (58.3)	26.9	5 (83.3)	19.2	7 (46.7)	26.9	26 (60.5)
50回以上	8 (114.3)	38.1	5 (71.4)	23.8	4 (80.0)	19.0	4 (57.1)	19.0	21 (80.8)

(調査データを元に作成)

10回以上のグループでは一般語彙が38.8%と一番高く、次に多いのが履修や学内関係語彙の27.9%である。20回以上、30回以上、40回以上のグループでも同様の傾向が見られる。50回以上のグループでは学籍関係の語彙が多い。学籍関係の語彙は使用回数が高いグループになるほどその割合が増えている。グループ間の分野ごとの語彙数の減少率に着目すると、一般語彙は使用回数が増えるにつれ、それぞれ半分ずつほどになっていく。履修・学内関係の分野では40回以上のグループまでは約半数に減り続けているが、一般語彙と学籍関係語彙では一定の傾向が見られない。各グループ間の全体の傾向を見ると、学籍関係以外では20回以上のグループと30回以上のグループ、40回以上のグループと50回以上のグループではそれぞれ類似した傾向が見られる。

以上のように、シラバス、学内手続き関係書類のどちらにも共通して使用されている語彙、それぞれにのみ使用されている語彙を分析すると、もっとも習得の重要性が高い共通使用の語彙では、学術分野の語彙が多く占めることになるが、経済学の専門用語は特に頻度は高くなく、シラバスにのみ使用されている語彙でも経済関係語彙数は使用回数が高いものほど少なくなり、学習に関する一般用語の習得が重要となる。学内手続きに関する書類では一般語彙は多数使用されているが、使用回数が多いものは学籍や履修・学内関係の語彙であることから、一般語彙より学習一般語彙や学籍、履修学内関係のやや専門領域の語彙の重要性がうかがわれる。さらに、20回以上使用されている語彙のグループと30回以上使用のグループ、40回以上と50回以上の使用のグループでは傾向がやや類似していることから、20回以上使用されている語彙について重要語彙、40回以上使用されている語彙を最重要語彙とするのが望ましいと思われる。

5.3 語彙の難易度と熟語語彙の定着率の関連

10回以上使用された形容動詞、動詞、形容詞、副詞、派生語で、学内手続き書類とシラバス両方に使用された語彙、それぞれにのみ使用されている語彙は以下の通りである(表6)。

表6 語彙のレベル別読み意味の正解率

形容動詞 (熟語)	共通	必要 可能
	シラバスのみ	様々 明確 重要 大切 自由 正確 適切 簡単
	学内手続き書類のみ	N/A
動詞 (訓読み)	共通	関する 行う 受ける 見る 送る 対する 出す
	シラバスのみ	学ぶ 考える 書く 身につける 使う 取り組む 進む 読む 知る 持つ 通じる 述べる 用いる 振り返る 通す 思う 求める 目指す 養う 役立つ 違う 応じる 取る 調べる 踏まえる 論じる
	学内手続き書類のみ	届け出る 願う 決める 申し込む 含む 異なる 忘れる 持ち込む 支払う
形容詞	共通	新しい 多い
	シラバスのみ	楽しい 深い 正しい 高い
	学内手続き書類のみ	詳しい
副詞	共通	必ず 他 及び すべて
	シラバスのみ	大いに 積極(的) 適宜 論理(的) 具体(的) 特に 例えば
	学内手続き書類のみ	際 同じ
派生語	共通	的 等 者 中 表 語 前 各 再 数 回 時
	シラバスのみ	学 業 力 方 法 性 化 論 本 諸 史 国 上 度 科 物 説 型 室
	学内手続き書類のみ	書 証 後 外 用 内 第 名 欄 会 条 別 次 点 届 先 分 願 下 費 版 済 通

(調査データを元に作成)

派生語の使用回数は以下の通りである(表7)。

表7 派生語の使用回数

	100回以上	80 - 99回	60 - 79回	40 - 59回	20 - 39回	10 - 19回
シラバス	3	1	3	3	10	11
学内手続き書類	2	1	3	2	16	11
全体	6	2	5	6	18	18

(調査データを元に作成)

学内手続き書類で10回以上使用されている形容動詞(熟語)は「可能」と「必要」の二つである。シラバスではそれ以外に「明確」「重要」「大切」など8語彙が使われている。形容詞でどちらの書類にも使用された語彙の種類は「新しい」と「多い」のみに留まっており、シラバスではそのほかにも4語使用されているが、学内手続き書類では「詳しい」のみである。授業の内容を説明する際に数種

類の形容表現が使われるが、学内手続き関係では少ないことがわかる。副詞でもシラバスの方が語彙の種類は多く、〇〇的という言葉が出ているのはシラバスだけである。一般動詞ではシラバスのみに使用されていて頻度が高いものに「学ぶ」「考える」「書く」「身につける」「使う」などがある。習得に関する動詞が多い。それに対し、学内手続き書類では「届け出る」「願う」「決める」「申し込む」「含む」のように手続きに関する語彙が高頻度である。派生語は学内手続き書類の方が種類が多く、12個の語彙が両方の書類に使われていて、名詞に次いで大きい数字である。使用回数の差が大きいのも派生語である。どちらの書類でも60回以上使用されているのは「等 (例:教科書等)」「者 (例:学習者)」であり、「的 (例:具体的)」はシラバスで主に使用されているが、学内手続き処理と合わせると、329回使用されている。派生語を覚えることで既存知識とつなげて語彙の幅を広げていくことが期待できることから、特に使用頻度の高い派生語を重要語彙として語彙リストで記載する。

5.4 語彙リストの拡大

学内手続き関係書類、シラバスで20回以内の使用頻度の語彙でもすべての書類を合計した際、高頻度となる語彙がないかどうかを調査した。合計で20回以上使用され、上記のリストに入っていない名詞は以下の20個である。

準備 状況 設定 簿記 指導 教職 教科書 欠席 管理 自己 条件 経験 指示 集中
年間 以外 研究 例 会社 開始

他の品詞については全体で10回以上使用された語彙に追加された語彙は「繰り返す」「気付く」の2語であった。

また、今村が2009年と2014年で社会科学系5分野の文献で使われる二字漢字語彙を調査し、高頻出語彙として列挙したもので、重複した語彙を除去すると、245語である。学内手続きに関する書類、シラバスでそれぞれ20回以上使用された名詞186語と10回以上使用された形容動詞10個に上記の名詞20語を加えた語彙の中で、今村のリストと重複している語彙は65個であった。さらにその中で経済の専門用語とされるのは「企業」「経営」「経済」「契約」「政治」「産業」「制度」の7語であった。経済用語ではあるが、特殊性をもつものではない。「収益」「配当」「均衡」など専門性の高い用語は本学の書類で20回以上使用された語彙の中には入っていないことから、専門性の高い用語は習得強化語彙に入れる必要性が低いと思われる。今村(2009)が社会科学系の文献でどの分野でもトップ50位に入っている語彙として挙げた4つの語彙のうち、「場合」「問題」「必要」は今回調査した学内手続き関係の書類にもシラバスにも多出しており、重要性が高いことが確認できる。

学内手続き関係の書類とシラバスで20回以上使用された語彙と上記の22個の語彙(名詞20個、一般動詞2個)を合わせたものを品詞別に分類したものは以下の通りである。なお、派生語については接頭語と接尾辞に仕分けした。名詞以外の品詞については全体数が少ないので10回以上使用された語彙を算出した。さらに、実際の授業ではさらにたくさんの語彙が使用されると想定されるので、松下(2014)の語彙リストの中で学術関係でよく使用されるとと思われる語彙を抽出した。最終的な語彙数は以下の通りである(表8)。

表8 総語彙数

	名詞	形容動詞	動詞	形容詞	派生語
元の語彙数	186	10	42	7	54
追加（合計で2回以上の語）	20	0	2	0	0
追加（松下の語彙リストより）	438	20	40	3	12
合計	644	30	84	10	66

(調査データを元に作成)

5.5 語彙の難易度

以上の語彙についてJLPTの語彙のレベルと合わせ難易度を検証した。JLPTの語彙は正式に公表された語彙リストがないため、一般的に学習テキストやウェブサイトで紹介されているものを参照し、あくまで目安として検証する。その結果、リストされた語彙の14.9%がN1レベル、45.8%がN2レベル、28.3%がN3からN5まで、11.0%がJLPTの語彙リストにはない語彙であった。大学入学レベルと言われるN2が一番多いが、N1レベルとリストされていない語彙を合わせると27.8%ある。特にN1レベルの語彙が多かった分野は「資格」「採用」「応募」などのキャリア関係、「株式」「戦略」「運営」などの経済学の語彙、「購入」「提示」「紛失」など動作を表す動詞、「概念」「意欲」「認識」など意識を表す分野であった。大学入学の基準とされるN2レベルがもっとも必要であることが確認されたが、それ以外でも必要語彙があることがうかがえる。

6. 語彙リストの作成

以上の検証結果を参照して、大学入学前習得必修語彙リストを作成する。リストには表9の856語彙を使用した。その中の名詞についてはアカデミック語彙、キャンパス語彙、一般語彙に分けた。仕分けの際は学内手続き書類のみに使用された語彙を中心にキャンパス語彙、シラバスのみに使用された語彙を中心にアカデミック語彙とした。さらに それぞれを細分化し、小分類の項目に分けた。項目に分けることで入学後語彙の教科を行う際に導入練習させやすくなると思われる。項目名は以下の通りである（表9）。

表9 小分類の項目

キャンパス語彙	大学組織 設備 資料手続き 教務関係 学籍 大学生活 キャリア
アカデミック語彙	教科 授業 学習用語 言語 論文 IT用語 経済社会
一般語彙	時 人 場所 数/範囲/順番 持ち物 個人情報 金銭 病気健康 交通機関 その他(概念) その他(動作) その他(状態) その他(意識)

(調査データを元に作成)

学内手続き書類、シラバスでそれぞれ20回以上使用されている名詞については、分析結果より20回以上のグループと30回以上のグループでは傾向が類似しており、さらに40回以上、50回以上のグループの類似傾向も認められるため、名詞の20回以上使用語彙99個を重要語彙、40回以上使用された語彙87個を最重要語彙とした。派生語については40回以上とそれ以外では数が大きく違うことを考慮して、名詞同様20回以上の使用頻度の語彙を重要語彙、40回以上のものを最重要語彙とした。そのほかの品詞については10回以上使用されている語彙を重要語彙とした。さらに、動詞（訓読み）については留学生が比較的なじみのある漢字一文字を使うもの（例:思う）と複合動詞（例:聞き取る）に分け、学習者が自分が苦手としている分野を探しやすいようにした。名詞のうち、キャンパス語彙の中では資料手続き、及び教務関係の最重要語彙数が最も多く、分析において学籍関係、履修・学内関係の語彙が多かったことがここでも反映されている。アカデミック語彙では最重要語彙は比較的どの項目にも均等に入っているが、「選択」「演習」など教科に関する語彙、「目標」「知識」などの学習用語が多く、次いで経済関係の語彙が多い。一般語彙では最重要語彙数は少なく、分析結果の反映がここでも確認できる。完成した語彙リストは資料に記載した。最終的な語彙数は以下の通りである（表10）。

表10 語彙リスト掲載語彙数

	名詞			形容動詞	動詞	形容詞	派生語	副詞	計
	アカデミック	キャンパス	一般						
最重要語彙	26	41	20	10	42	7	16	13	175
重要語彙	25	31	43	0	0	0	20	0	119
その他の語彙	98	150	210	20	42	3	30	8	561
合計	149	222	273	30	84	10	66	21	855

(調査データを元に作成)

リストは項目ごとにJLPTのレベルが高い順に並べ、その中で最重要（濃いハイライト太文字）、重要（薄いハイライト）、その他の語彙の順に列挙している。

7. 今後の課題

本研究では経済学部の留学生を対象にしたが、経済の専門用語でも特に専門性のある用語は含まれていない。ほかの学部で調査したとしても同様に専門性の強い語彙はあまり含まれないと想定できる。よってこの語彙リストはどの学部でも参考になると思われる。

リストに載せた語彙数は多く、その中には実際の講義などで使用頻度が低い語、あるいはここには載っていないが必要な語彙もあると思われる。教職員への聞き取りや学生への調査をすることでさらに精密なリストが完成するであろう。学生が入学前の学習や入学試験、入学後の語彙強化学習でこの語彙リストが活用されることを期待する。

文献一覧

- Aiko, M. (2018). Improving the kanji proficiency of adolescent Japanese heritage learners. (PhD), RMIT University, Melbourne, Australia.
- Paxton, S., & Svetanant, C. (2014). Tackling the kanji hurdle: Investigation of kanji learning in non-kanji background learners. *International Journal of Research Studies in Language Learning*, 3(3), 89-104.
- Toyoda, E. (2007). Enhancing autonomous L2 vocabulary learning focusing on the development of word-level processing skills. *The Reading Matrix: An International Online Journal*, 7(3), 13-34.
- 今村和宏 (2009). 「社会科学基礎文献における二時間後と四字漢語の諸相」, 人文・自然研究, 8, 4-27頁.
- 今村和宏 (2014). 「社会科学系基礎文献における分野別語彙、共通語彙、学術共通語彙の特定」, 専門日本語教育研究, 16, 27-34頁.
- 梅村修 (2003). 「留学生の講義理解 - 構造マーカーが講義談話の構造把握に及ぼす影響について -」, 追手門学院大学文学部紀要, 39, 1-16頁.
- 曾文華・高橋志野 (2003). 「日本語聴解試験の傾向と実践的聴解授業指導への応用」, 愛媛大学教育学部紀要, 60, 113-124頁.
- 中居順子 (2003). 「日本留学試験(聴解・聴読解)における課題達成能力の分析 - コミュニケーション指導への第一歩として -」, 東京経営短期大学紀要, 11, 257-268頁.
- 平尾得子 (1999). 「講義聴解能力に関する一考察 - 講義聴解の特徴と日本語学習者が抱える問題点 -」, 日本語・日本文化, 25, 1-22頁.
- 堀井恵子 (2003). 「留学生が大学入学時に必要な日本語力は何か - 『アカデミック・ジャパニーズ』と『日本留学試験』の『日本語試験』を整理する」, 日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ, 平成14年度~16年度科学研究費補助金基盤研究費(A)(1)(課題番号 14208022)研究成果報告書(研究代表者:門倉正美), 113-122頁.
- 松下達彦 (2014). 「日本語を勉強する人のための語彙データベース(留学生用)Version. 2.0」, http://www1740ui.sakura.ne.jp/tatsum/database/JKVC_ver2_0.xlsx, 2021年8月1日.
- 三國純子 (1998). 「講義の聞き取りに関する分析と問題点」, 文化女子大学・社会科学研究, 6, 211-224頁.
- 向井留実子・串田真知・築地伸美・菅野真紀子・吉井隆明 (2006). 「非漢字圏学部留学生の漢字語彙力調査から見えてくるもの - マレーシア政府派遣留学生を事例として -」, 専門日本語教育研究, 8, 51-56頁.
- 森朋子 (2005). 「大学教育における『アカデミック・ジャパニーズ』を考える」, 東京家政学院大学紀要, 45, 117-122頁.
- 山口和代 (2014). 「アカデミック・ジャパニーズの養成を目指した授業実践 - 総合政策学部『日本語 II(総合)』における取り組み -」, 南山大学外国人留学生別科紀要, 14, 53-64頁.
- 山本富美子 (2003). 「留学生に求められる日本語能力と大学学部教学体制の国際化」, 日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ, 平成14年度~16年度科学研究費補助金基盤研究費(A)(1)(課題番号 14208022)研究成果報告書(研究代表者:門倉正美), 73-88頁.
- 山本富美子 (2005). 「アカデミック・ジャパニーズに求められる語彙知識とは - 2-4 級語彙・文法事項の重要性 -」, 日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ(2), 平成14年度~16年度科学研究費補助金基盤研究費(A)(1)(課題番号 14208022)研究成果報告書(研究代表者:門倉正美), 110-126頁.
- 渡辺淳一 (2003). 「マレーシア政府派遣学部留学プログラム - 現状、そして問題そして将来に向けてから -」, 大学と学生, 470, 7-16頁.

添付書類

別紙1 (10回以上の使用された名詞のリスト)

使用頻度	共通語彙	シラバスのみ	手続き書類のみ
10回以上	講義 日本 評価 内容 学習 方法 説明 地域 基礎 情報 計画 問題 単位 科目 対象 試験 生活 定期 選択 作成 年次 担当 教育 参加 確認 活動 企業 自分 大学 学生 提出 健康 場合 実施 使用 受講 以上 出席 契約 利用 学校 操作 能力 制度 学期 準備 設定 相談 調査 教職 指導 条件 簿記 次 状況 変更 教員 会社 購入 時間 取得 春 専門 注意 (64)	社会 理解 経済 目標 課題 基本 概要 責任 経営 知識 文章 必須 時期 演習 締め切り 表現 歴史 形式 字 講師 文化 産業 練習 復習 環境 商業 語彙 音楽 発展 態度 活用 何 貢献 世界 政治 現代 資料 実習 人 哲学 目的 近代 運動 日常 配布 流通 学年暦 家 国際 紹介 倫理 実践 小売業 機能 質問 整理 構造 特徴 時代 分析 意見 期末 市場 思想 中心 変化 理論 心理 地方 発見 発表 文法 意義 関係 形態 経験 事例 習得 毎回 予習 様子 意味 技術 仕組み 対応 概念 技能 欠席 個人 向上 参考 自ら 将来 遅刻 板書 計算 自己 主体 読解 発想 判断 役割 用語 応用 解決 関連 企画 制作 政策 総合 影響学問 事項 分野 過程 指示 視点 次 人権 伝統 意欲 決算 構成 商品 身体 戦略 組織 程度 把握 発声 文 編集 開発 楽曲 観点 関心 原理 現在 現状 考察 作品 処置 消費 成長 全般 展開 文学 文書 要素 労働 (150)	履修 申請 登録 証明 在留 資格 留学 時間割 許可 卒業 保険 手続き 受験 抽選 期間 表示 学科 番号 免許 発行 学生課 画面 教務課 就職 書類 国際交流 提示 入力 修得 入学 規定 掲示板 語学 指定 結果 引越越し 外国 住所 教室 電話 国民 成績 連絡 本学 確定 認定 紛失 時限 必修 用紙 曜日 希望 名前 秋 英語 開講 完了 検定 更新 参照 出入国在留管理局 下記 記入 受付 学内 加入 教科書 以外 運転 記載 在学 先生 開始 業務 合格 削除 追試験 以内 管理 期限 集中 年度 復学 窓口 皆 学修 休学 携帯 再入国 年間 学納金 課程 図書館 通学 お知らせ 追加 納付 理由 例 週間 診断 学籍 終了 受診 予約 料金 区分 掲示 研究 原則 厚生課 座席 詳細 所属 入国 半角 販売 便覧 要領 違反 各自 機関 帰国 交通 支援 自動車 法律 母国 要件 (129)

使用頻度	共通語彙	シラバスのみ	手続き書類のみ
20回以上	授業 講義 日本 内容 説明 情報 問題 単位 科目 対象 試験 生活 定期 選択 作成 年次 担当 参加 確認 活動 自分 大学 学生 提出 健康 場合 実施 使用 受講 以上 出席 操作 (32)	社会 理解 評価 学習 方法 経済 目標 課題 基本 地域 基礎 計画 概要 責任 経営 知識 文章 必須 時期 演習 締め切り 教育 表現 歴史 形式 漢字 講師 企業 文化 産業 練習 復習 環境 商業 語彙 音楽 発展 態度 活用 何 貢献 世界 政治 現代 資料 実習 人 哲学 目的 近代 運動 契約 日常 配布 流通 学年暦 家 国際 紹介 倫理 実践 小売業 利用 機能 質問 整理 学校 構造 特徴 能力 時代 分析 意見 期末 市場 思想 制度 中心 変化 理論 (80)	履修 申請 登録 証明 在留 資格 留学 時間割 許可 卒業 保険 変更 番号 手続き 受験 抽選 期間 表示 学科 学期 免許 発行 学生課 画面 注意 教務課 就職 書類 相談 国際交流 提示 入力 修得 入学 規定 掲示板 語学 指定 結果 引越 外国 時間 取得 専門 調査 教員 住所 教室 購入 電話 国民 成績 連絡 本学 春 確定 認定 紛失 時限 必修 用紙 曜日 希望 名前 秋 英語 開講 完了 検定 更新 参照 出入国在留 管理局 下記 記入 (74)
30回以上	授業 講義 日本 説明 情報 単位 科目 試験 参加 確 認 活動 自分 大学 学生 健康 対象 定期 選択 年次 提出 場合 (21)	社会 理解 評価 学習 方法 経済 目標 課題 基本 地域 基礎 計画 概要 責任 経営 知識 文章 必須 時期 演習 締め切り 教育 表現 歴史 形式 漢字 講師 企業 文化 産業 練習 復習 環境 商業 語彙 音楽 発展 度 活用 貢献 世界 政治 実施 内容 問題 生活 作成 担当 (49)	履修 申請 登録 証明 在留 資格 留学 時間割 許可 卒業 保険 変更 番号 手続き 受験 抽選 期間 表示 学科 学期 免許 発行 学生課 画面 注意 教務課 就職 書類 相談 国際交流 提示 入力 修得 入学 規定 掲示板 語学 指定 使用 結果 引越 外国 時間 (43)

使用頻度	共通語彙	シラバスのみ	手続き書類のみ
40 回以上	授業 講義 日本 説明 情報 単位 科目 試験 参加 確認 活動 自分 大学 学生 健康 (15)	対象 定期 選択 年次 提出 練習 復習 環境 商業 社会 理解 評価 内容 学習 方法 経済 目標 課題 基本 地域 基礎 計画 問題 概要 生活 責任 経営 知識 文章 作成 必須 時期 担当 演習 締め切り 教育 表現 歴史 形式 漢字 講師 企業 文化 産業 (44)	学科 履修 場合 申請 登録 証明 在留 資格 留学 時間割 許可 卒業 保険 変更 番号 手続き 受験 抽選 期間 表示 学期 免許 発行 学生課 画面 注意 (26)
50 回以上	授業 講義 日本 説明 情報 単位 科目 試験 参加 確認 活動 自分 (12)	社会 理解 評価 内容 学習 方法 経済 目標 課題 基本 地域 基礎 計画 問題 概要 対象 生活 定期 選択 責任 経営 知識 文章 作成 必須 年次 時期 担当 演習 締め切り 教育 表現 歴史 形式 漢字 講師 企業 文化 産業 (39)	履修 場合 申請 学生 登録 証明 在留 資格 留学 時間割 許可 卒業 保険 変更 番号 手続き 受験 抽選 期間 表示 大学 (21)

名詞(アカデミック語彙)							名詞(一般語彙)	
10.学習用語	11.言語	12.試験課題	13.論文	14.IT用語	15.経済経営	16.政治社会 法律	17.時	18.人
簡条書き	語彙	期末	概要	設定	小売業	政策	期日	職員
訂正	聞き取り	記述	参照	消去	株式	人権	隔週	講師
展示	導入	得点	著書	検索	市場	環境	連休	教員
目標	語句	減点	審査	情報	戦略	制度	時差	教授
学習	表現	結果	形式	操作	運営	国民	期間	後輩
知識	展開	定期	指導	機能	開発	思想	時期	相手
理解	結論	提出	分析	削除	所得	憲法	年間	各自
修得	文字	評価	資料	手書き	顧客	主義	曜日	個人
内容	句読点	成績	論文	保存	決算	違反	現代	年代
能力	熟語	傾向	構成	挿入	収支	資源	近代	選手
例	部首	採点	項目	添付	経営	伝統	開始	集団
対策	単語	作品	考察	画面	商業	政治	終了	先輩
賛成	送り仮名	点数	引用	入力	企業	文化	期限	公務員
暗記	翻訳	範囲	索引	画像	契約	国際	西暦	先生
括弧	通訳	筆記	文献	送信	資本	法律	現在	人
矢印	原稿	不可	下書き	受信	需要	貿易	未来	学生
間違い	文法	可	研究	上書き	供給	自然	以前	自分
図表	会話	解答	書式	全角	販売		以後	准教授
記号	発音	答案	後書き	半角	商品		以降	
記録	漢字	試験	添削	英数	価格		以来	
解説	文章	締め切り			消費		上旬	
計算	意味	問題			価値		下旬	
要旨	読解	追試験			物価		今後	
説明	読み書き				営業		時代	
意見	音読				利益		将来	
反対	書き言葉				割引		週末	
練習	話し言葉				税金		時間	
	誤字				経済		春夏	
	脱字				社会		夏	
					産業		秋冬	
					流通		冬	
					競争		午後	
					生産		午前	
					起業		随時	
27	29	23	20	20	34	17	34	18
7	3	6	2	2	6	2	2	3
3	1	3	3	3	4	5	7	2
17	25	14	15	15	24	10	25	13

名詞(一般語彙)

19.場所	20.数・範囲・順番	21.持ち物	22.個人情報	23.金銭	24.病気健康	25.交通機関	26.その他名詞(概念)	27.その他名詞(動作)
諸国	前半	携帯	学歴	送金	保険	乗り換え	理論	提示
各国	後半	印鑑	氏名	学費	感染	交通	自己	購入
地域	除外	書類	国籍	送料	健康	駐車場	総合	紛失
海外	集計	用紙	性別	料金	診断	自動車	詳細	記載
都市	下記	電卓	生年月日	有料	検査	自転車	原則	開催
地方	未滿	筆箱	年齢	無料	受診		緊急	回収
自宅	前後	鉛筆	番地	両替	消毒		観点	企画
世界	前者	電話	有無	領収書	予防		平常	支援
場所	最新	辞書	住所	学納金	内科		背景	対応
家	全体	時計	名前	納付	具合		基本	掲載
国内	部分	写真	査証		薬		責任	収集
外国	奇数	新聞			事故		対象	挑戦
日本	偶数	印紙			病院		方法	保管
都道府県	四捨五入				風邪		共通	確認
	拡大						状況	貢献
	縮小						中心	作成
	順位						目的	参加
	順序						構造	実施
	複数						参考	指定
	平均						事前	使用
	以外						関連	指示
	以上						基準	調査
	以下						段階	活躍
	以内						様子	交換
	最初						場面	行動
	最後						適用	制作
	次						程度	追加
	上記						直接	通知
	除去						性格	編集
							順番	報告
							種類	交流
							効果	注意
							特徴	経験
							場合	準備
							関係	紹介
							理由	利用
							技術	連絡
							一般	用意
							機会	案内
							割合	表示
							絶対	
							成長	
							何	
							任意	
							要件	
14	29	13	11	10	14	5	45	40
2	0	0	0	0	2	0	5	5
3	2	3	2	0	0	0	6	11
9	27	10	9	10	12	5	34	24

名詞(一般語彙)		形容動詞	形容詞	副詞	動詞		派生語	
28.その他名詞(状態)	29.その他名詞(意識)	30.形容熟語	31.形容詞	32.副詞	33.一般動詞	34.複合動詞	35.接尾語	36.接頭語
確定	概念	活発	詳しい	論理(的)	持つ	取り組む	的	再
向上	意欲	可能	高い	及び	忘れる	振り返る	等	第
持続	視点	様々	深い	適宜	違う	受け付ける	証	諸
把握	認識	明確	正しい	客観(的)	応じる	書き取る	科	総
該当	希望	正確	楽しい	積極(的)	学ぶ	仕上げる	費	非
活用	意識	困難	新しい	消極(的)	使う	付け加える	版	無
管理	感謝	正直	多い	必ず	述べる	取り扱う	室	約
集中	工夫	真剣	大きい	際	書く	繰り返す	通	全
整理	考慮	親切	おもしろい	全て	目指す	申し込む	側	不
変化	想像	慎重	難しい	例えば	養う	持ち込む	料	各
完了	関心	得意		他	扱う	役立つ	学	新
発展	常識	苦手		大いに	関わる	入れ替える	者	
影響	意思	簡単		特に	気付く	聞き取る	後	
判断	興味	自由		決して	配る	問い合わせる	中	
習得	趣味	適切		全然	示す	取り入れる	表	
期待	心構え	必要		当然	沿う	取り消す	方	
協力		安全		全く	確かめる	話し合う	語	
禁止		一生懸命		最も	試す	読み取る	法	
決定		危険		具体(的)	除く	身につける	性	
検討		残念		同じ	伸ばす	片付ける	上	
発達		特別		結構	間違う	手伝う	数	
省略		熱心			認める	間に合う	会	
計画		複雑			見直す	届け出る	回	
故障		真面目			含む	書き写す	名	
		心配			出す	貸し出す	欄	
		重要			論じる		説	
		大切			用いる		型	
		大変			願う		課	
		便利			通じる		枚	
		有名			異なる		末	
					支払う		点	
					基づく		別	
					選ぶ		用	
					備える		度	
					始める		書	
					関する		業	
					対する		力	
					見る		外	
					求める		前	
					考える		化	
					取る		論	
					知る		本	
					進む		条	
					決める		済	
					行う		国	
					受ける		届	
					送る		先	
					入れる		下	
					思う		分	
					調べる		内	
					通す		願	
					踏まえる		物	
					読む		時	
					動く		史	
					覚える		所	
					聞く			
					消す			
					作る			
					習う			
24	16	30	10	21	59	25	55	11
1	0	10	7	13	35	7	16	0
6	1	0	0	0	0	0	16	4
17	15	20	3	8	24	18	23	7

